

「夢フェスタ」の ボランティア体験

北 佐藤静子（大日出生）

「新潟県上越市です。取れたてのコシヒカリはいかがですか。上杉謙信の義の塩は、いかがですか」。最初は小さな声で、そのうち、思いつき大きな声を張り上げて、東京の真ん真ん中、日々谷公園でのふるさと上越市のPR。それはそれは爽快な一日でした。

九月にお送りいただいた「ネットふるさと上越」だよりに「全国合併市町村夢フェスタ2006」に上越市もPRコーナーを出展するので、当日のボランティアを募集します。とお知らせがありました。前々から一度体験してみたいと思っていた東京での上越市のPRです。早速ボランティアに申し込みました。後日、担当課からの案内をいただきましたので、わくわくして当日を待ちました。

実施期間の中日十月十四日（土）は、高く鯨雲の浮かんだ絶好の開催日よりと

なりました。八時三十分、会場の日比谷公園に到着。開始時刻の九時を前にして、どんどん人が集まってきました。

上越市の出展は、中程にありました。担当の方、ボランティアの方との挨拶が済んで、ピンクのはんてんと名札が渡され、早速、活動開始です。パンフレットを渡し、地図で観光名所を説明したり。また、大きな声で、目の前にある名産品（はず麺、義の塩、コシヒカリ、翁あられ、揚げ煎餅、継続だんご、干だら等）をPRしたりしました。人の流れの中で上越市にゆかりの方は、立ち止まり、懐かしそうに名産品を手に取り、購入する人も多くありました。それから、新潟県上越市つてどの辺ですか。ああ、ここね。随分大きいんですね。貼つてある地図を指して説明。ぜひ上越市へおいでください。と、大勢の人に声をかけました。おかげさまで三時過ぎには、

名産品の山も小さくなっていました。そして「お疲れ様でした。」と担当の方の挨拶を受けて、三時半にボランティア活動は終わりました。

今年はこの「夢フェスタ」は二年目であり、来年も予定されているとのこと。願わくば、お酒は試飲だけではなく、販売もあつたら良いな。また、コシヒカリは、二キロ入りのほかに、五〇〇グラム入り、一キログラム入りも思いました。

後日、市長よりお礼状をいただきました。貴重な体験をさせていただきましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

